

阪神地域の都市地震火災ハザードマップ

- 市民による防災まちづくりに向けた調査 -

特定非営利活動法人
神戸まちづくり研究所

調査の背景

阪神間の密集市街地は、平成7年(1995年)の阪神・淡路大震災で、家屋の倒壊や火災の発生など大きな被害を受けました。

しかし、阪神間には依然として古い木造住宅が集中し、道路や公園などが不足しているため、再び地震で火災などが発生して大きな被害が生じる地域がまだ散在しています。

また、このような地域は高齢者が多く、このままでは自主的な防災まちづくりも期待しにくい状況にあります。



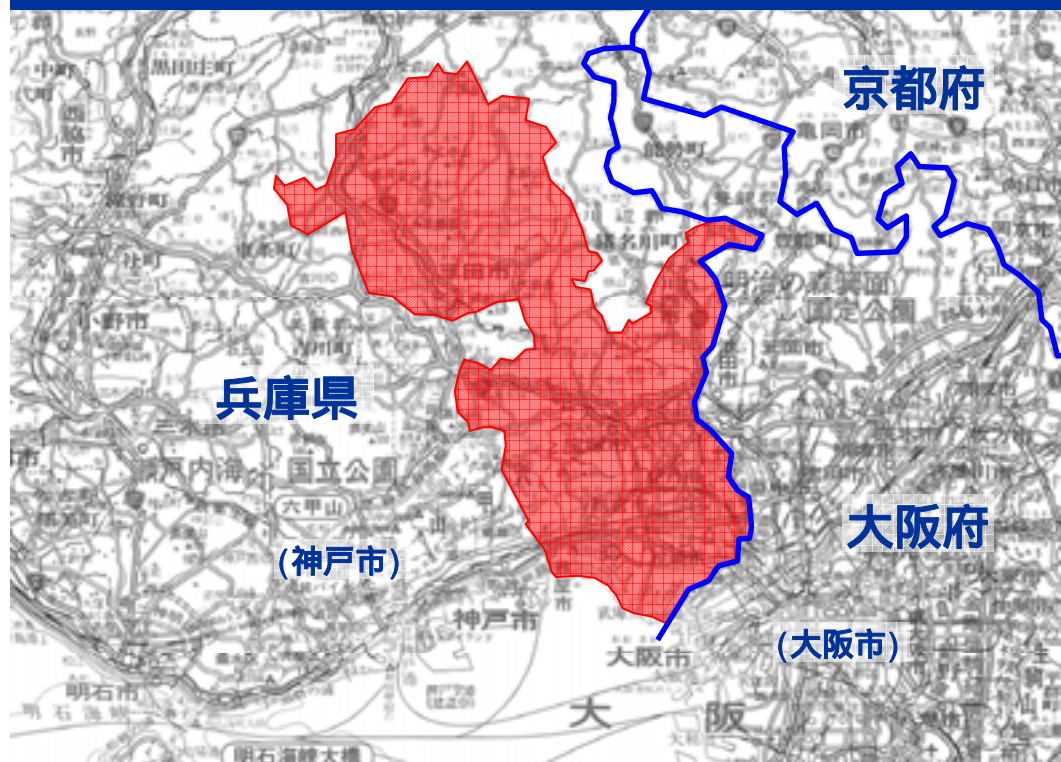
調査の目的

火災時に燃え広がりやすい地域の改善にあたっては、まず地域住民のみなさんに、その危険性を理解してもらうことが前提になります。

このため、阪神・淡路大震災から10年がたつ今、「地震火災ハザードマップ」を作成し、各地域における「防災まちづくり」のきっかけづくりを行うために調査を実施しました。



調査対象地域



阪神・淡路大震災の被災10市10町のうち、阪神間の

**三田市、芦屋市、西宮市、尼崎市、伊丹市
宝塚市、川西市** の7市

面積：559km² 人口：166万人

調査の手順

1 課題町丁の抽出

建物等に関する行政データを利用して、火災・家屋倒壊など防災上課題のある町丁(集計区)を抽出



2 即地的な要不燃化地域の設定

大規模空地等の有無、道路や大規模都市施設の状況等をふまえて「要不燃化地域」を設定



3 不燃化重点地域の絞込み

延焼防止の一指標である不燃領域率の考え方に基づいて、「不燃化重点地域」を絞込み

1

課題町丁の抽出

【利用指標】 H16都市計画基礎調査データ

火災危険度：耐火率

(非木造建物の1階床面積 / 1階床面積合計)

建物倒壊危険度：老朽木造建物率

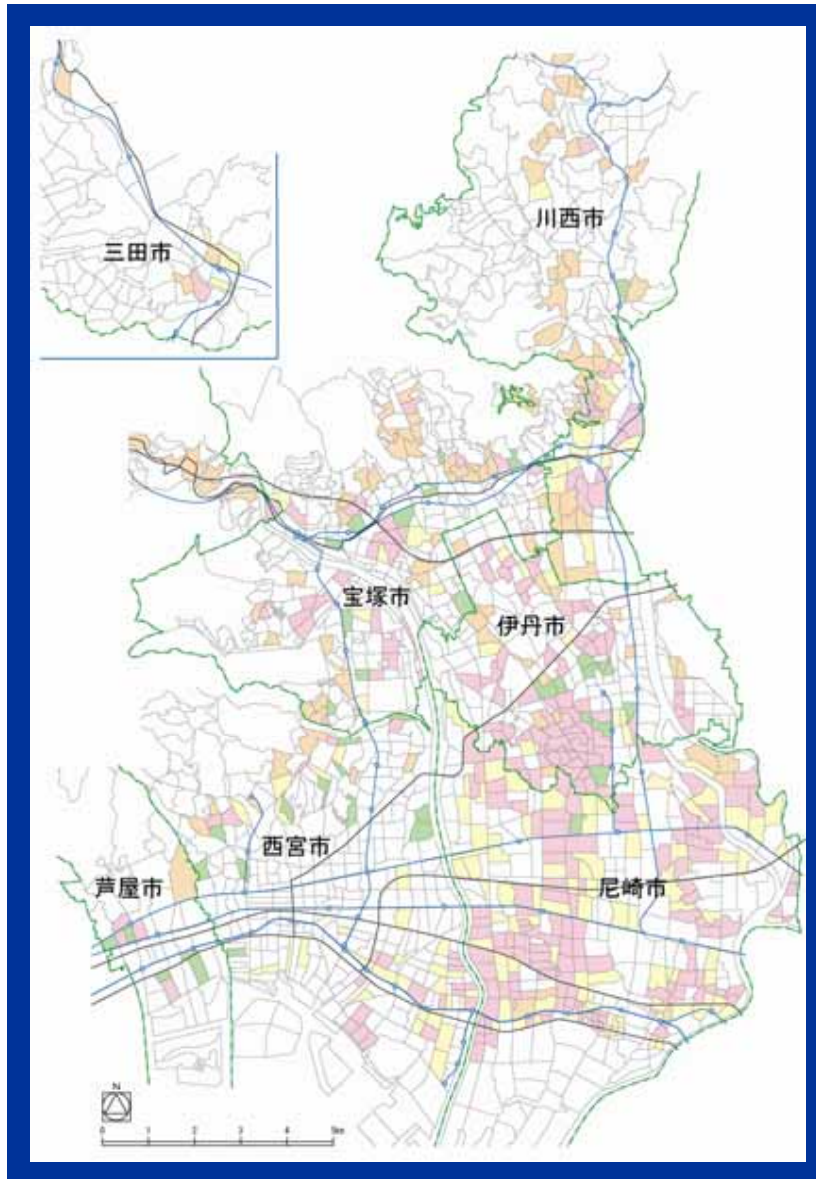
(S55以前1階床面積 / 1階床面積合計)

市街地密集度：世帯密度

(世帯数 / 地区面積)



耐火率	老朽木造建物率	世帯密度	分類
40%未満	30%以上	30世帯/ha以上	赤
40%未満	30%以上	30世帯/ha未満	オレンジ
40%以上	30%以上	30世帯/ha以上	黄
40%未満	30%未満	30世帯/ha以上	緑

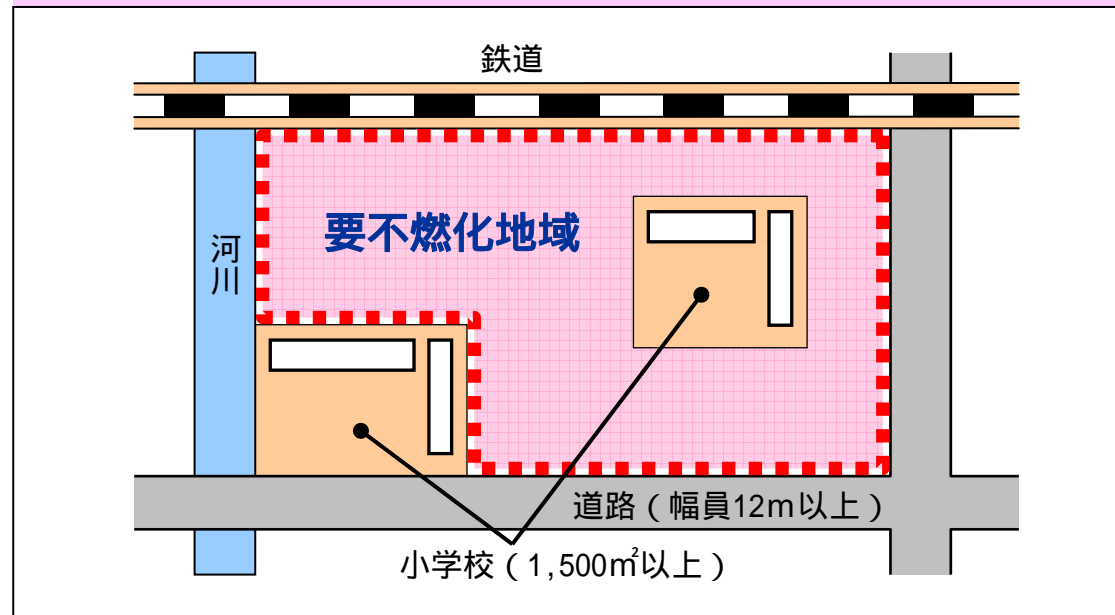


2 即地的な要不燃化地域の設定

* 以下の地物に囲まれた面積 5 ha以上の街区

- a . 道路、河川、水路等：幅員12m以上
- b . 鉄道(路面・高架とも)
- c . 市街化調整区域界

* 街区の縁辺部に立地する大規模非木造施設・空地等（敷地面積1,500㎡以上）は除外



要不燃化地域例：01
(尼崎市)



要不燃化地域例：02
(尼崎市)



3 不燃化重点地域の絞込み

延焼防止の1指標である不燃領域率の考えに基づき、不燃化重点地域を絞込み

非木造建築物の建築面積
幅員6m以上の道路・河川等の面積
大規模都市施設・空地等の敷地面積

街区ごとの不燃領域率を算出

不燃領域率40%未満の街区を「不燃化重点地域」として抽出

不燃化重点地域の概ねの位置をプロットした「地震火災ハザードマップ」を作成



具体的なまちづくりの展開

火災ハザードマップを活用し、地域・行政・NPO等の連携による様々な「防災まちづくり」を展開



地震火災ハザードマップ

■不燃化重点地域数 () の値は面積[ha]

	課題町丁 [集計区]	要不燃化 地域	不燃化 重点地域
三田市	2 (27.5)	2 (27.4)	2 (27.4)
芦屋市	4 (41.6)	5 (89.1)	0 (-)
西宮市	24 (167.3)	14 (213.9)	10 (145.1)
尼崎市	118 (1,133.9)	68 (1,246.1)	33 (525.5)
伊丹市	63 (497.4)	24 (548.0)	15 (220.0)
宝塚市	28 (236.9)	14 (344.1)	10 (135.4)
川西市	14 (152.9)	13 (174.9)	7 (89.9)
計	253 (2,257.5)	140 (2,643.5)	77 (1,143.3)

